パプアニューギニアの天然ゴム産業

廣 畑 伸 雄

Rubber Industries in Papua New Guinea

Nobuo Hirohata (Yamaguchi University, 2-16-1, Tokiwadai, Ube, Yamaguchi) hirohata@yamaguchi-u.ac.jp

Natural rubber industry has a long history in Papua New Guinea, because the Para rubber tree, *Hevea brasiliensis*, had been planted since 1903. In recent years, the production volume of natural rubber has been decreasing, however, some efforts for expanding natural rubber industries are planned. There is only one natural rubber estate in Doa, Central province. The technically specified rubber is produced from cup lump. The products are exported to only Malaysia. There are approximately ten thousand of smallholders in Western province. Traders buy cup lump from the smallholders and sell them to primary processing factories or export them to other countries. The smallholders organize cooperative of natural rubber led by some companies and the government. The potential of natural rubber industry in Papua New Guinea is very high. Both of the estates in Central province and the cooperative in Western province are proceeding new planting. In the near future, the production volume would be increased rapidly in Papua New Guinea.

(Received on March 19, 2019)

Key Words : Natural Rubber, Plantation, Smallholder, Cooperative, Papua New Guinea

1. パプアニューギニアの概要

パプアニューギニアは、ニューギニア島の東半分（西半分はインドネシア領）と、同島北東部のビスマルク諸島などの島々から構成されており、総面積は約46万km²、人口は約825万人である。

同国は1884年に北東部がドイツの保護領となり、南東部が英国の保護領となっている。その後、オーストラリアによる委任統治などを経て1975年に独立しており、現在はイギリス連邦加盟国になっている。

同国の産業構成比についてみると、第一次産業が18.8%、第二次産業が33.7%、第三次産業が47.5%となっている¹⁾。同国の主要輸出産業は、農業（パーム油、コーヒー・ココア等）、林業（木材等）、鉱業（天然ガス、金・銅等）などで、主要貿易相手国はオーストラリア、日本などである。

2. パプアニューギニアの天然ゴム

パプアニューギニアにおける天然ゴムの植林・栽培は、ニューギニア島で1903年に開始されている。また、同時期に旧ドイツ領の地域では、ヘベアブラジリエンスではなく、アッサムラバーが植林・栽培されていた。1960年代以降においては、同国の農林水産省による住民の定住・再定住政策として、天然ゴムのスモールホルダー育成事業が実施されたことにより、天然ゴムの植林・栽培は増加した²⁾。

同国で天然ゴムが植林・栽培されている地域は、首都ボー

廣畑 伸雄：国立大学法人山口大学技術経営研究科（〒755-8611 山口県宇部市常盤台2-16-1）教授。博士（工学）。平成23年、山口大学理工学研究科修了。専門は、天然ゴム、カンボジア経済。アジア経営学会理事。

Figure 1 Production Volume of Natural Rubber in Papua New Guinea (unit: ton)

トモレスビーを取り巻く中央州、同州からニューギニア島の南部で西側に隣接する湾岸州と西部州が中心で、オロ州、マヌス州、イーストセピック州、ニューアイルランド州、サンダウン州に広がっている。

近年におけるパプアニューギニアの天然ゴムの生産量は2013年の7,500トンから直近の5,000トン台へと減少している³⁾ (Figure 1)。同国の天然ゴム植林面積は約15,000ヘクタールと推測され、同国の総面積の0.03%に相当する。ただし、老木も多いことからタッピングされていない、あるいは収穫量が少ない樹木も多い。天然ゴムを植林・栽培しているスモールホルダーは約10,000人と推測される。天然ゴムはカップランプの形で仲買人経由で輸出されるか、一次加工場へ搬送されている。2017年における天然ゴム輸出額は約619万ドルで、同国の総輸出額約89億ドルの0.07%に相当する⁴⁾。

3. 天然ゴム産業の現況

3.1 プランテーション

パプアニューギニアで最初の天然ゴムプランテーションは、ポートモレスビーから北西に約50 kmの位置にある中央州のドアに設けられた。ドア・プランテーションは、ベルギーのSIPEF (Societe Internationale de Plantations et de Finance) の子会社であるGalley Reach Holdings Ltd.により運営されてきた。SIPEFは1919年創業の農業関連企業で、現在はパプアニューギニアでパームオイル、インドネシアで天然ゴムとパームオイル、アイボリーコストでバナナのプランテーションを経営している⁵⁾。

SIPEFは、ドア・プランテーションを売却しており、現在の所有者はマレーシアのGreenyard Berhadの子会社であるGIM Triple Seven Berhad社になっている。Greenyard Berhadは1937年創業の農業関連企業で、肥料、農作業道具や植木鉢などを製造販売してきたが、近年においては、マレーシアで天然ゴムプランテーションを買収するなど経営の多角を図っている⁶⁾。

ドア・プランテーションの支配人によれば、2018年末現

在の植林・栽培面積は約3,500ヘクタールで、今後5年かけて毎年500ヘクタールの植林を行う予定とされている。クローンは約60%がマレーシアで品種改良されたPB260である。プランテーション内にある一次加工場では、トラクターで運送されたカップランプから技術的格付けゴム (TSR: Technically Specified Rubber) が生産されている。生産量は技術的格付けゴムのPNGCR10 (TSR10) が年産約5,000トンとのことで、全量がポートモレスビーからマレーシアに輸出されている。

3.2 天然ゴム一次加工場

天然ゴムの貿易商社として1983年に創設されたProgress Pty Ltd.は、1990年代前半に、OK Tedi Fly Rubber Development Trustとの共同事業として、North Fly Rubber Pty Ltd.を設立し、西部州で天然ゴム事業を開始している。その後、天然ゴムのスモールホルダーもNorth Fly Rubber Pty Ltd.の株主となっており、現在では協同組合に近い形になっている。OK Tedi Fly Rubber Development Trustは、同州で銅山を経営しているOK Tedi Mining Ltd.の地域貢献事業のための基金である。なお、OK Tedi Mining Ltd.の株主はBHP Billitonであったが、現在はPNG Sustainable Development Program Ltd., Inmet Mining Corporation, パプアニューギニア政府である。North Fly Rubber Pty Ltd.は、スモールホルダーから購入・回収したカップランプを一次加工場に搬入し、技術的格付けゴムのPNGCR10 (TSR10) を生産している。製品は、河川港のKiunga港から、ポートモレスビーやオーストラリアのクイーンズランドに輸送されている⁷⁾。

4. 終わりに

パプアニューギニアの天然ゴムの生産量は若干減少傾向にあるが、植林・栽培が可能なエリアは広く、ポテンシャルは大きい。実際にGIM Triple Seven Berhadは、中央州において新規の植林を進めていく計画である。North Fly Rubber Pty Ltd.も、西部州において、スモールホルダーの新規植林にかかる技術・金融等の支援に加え、視覚的格付けゴム (RSS: Ribbed Smoked sheet) 工場を建設中であり、今後における同国の天然ゴム生産量は増加していく見通しである。

References

- 1) Asian Development Bank *Papua New Guinea, Key Indicators for Asia and the Pacific 2018* 2018. <https://data.adb.org/sites/default/files/papua-new-guinea-key-indicators-2018.pdf> (accessed Mar 8, 2019)
- 2) Tok Pisin English Dictionary *Rubber in Papua New Guinea*. <https://www.tokpisin.info/rubber-papua-new-guinea/> (accessed Mar 8, 2019)
- 3) International Rubber Study Group *Rubber Statistical Bulletin*, 2018. Vol.73, No.1-3, p.14

- 4) The Observatory of Economic Complexity ホームページ.
https://atlas.media.mit.edu/en/visualize/tree_map/hs92/export/png/all/show/2017/ (accessed Mar 8, 2019)
- 5) SIPEF *Annual Report 2017*: Schoten, **2018**; p 5-7. <https://www.sipef.com/media/1127/sipef-annual-report-2017-en.pdf> (accessed Mar 8, 2019)
- 6) Greenfield Berhad *Annual Report 2018*: Kuala Lumpur, **2018**; pp 16-18. <http://www.greenyield.com.my/sites/default/files/pictures/AR2018.pdf> (accessed Mar 8, 2019)
- 7) North Fly Rubber Pty Ltd. 2005 Shareholders Report: Kiunga, Papua New Guinea, **2005**; p 2-6. <https://nfrblog.files.wordpress.com/2013/08/north-fly-rubber-limited-2005-shareholder-report.pdf> (accessed Mar 8, 2019)

*

*

*

*

*